

「実務実習記録」

記載項目と作成プロセスの例示

平成21年8月

日本薬学会 薬学教育改革大学人会議

実務実習指導システム作り委員会

「実務実習記録」記載項目と作成プロセスの例示

日本薬学会 薬学教育改革大学人会議
実務実習指導システム作り委員会

本委員会では、実務実習の全期間を通して学生、大学教員、指導薬剤師の三者が情報を共有でき、また学生の実習中の成長を確認できるような“記録”のあり方について検討を重ねてきました。“記録”のフォーマットについては大学や地区単位で準備が進められていることから、本委員会では“記載項目”について提案することとしました。また、“記録”の名称は、“ポートフォリオ”という用語がまだ普及していない現状を考慮して「実務実習記録」と呼ぶことにしました。以下に、「実務実習記録」に記載する項目を例示するとともに、作成プロセス例を紹介します。今後、各大学・各地区で「実務実習記録」について検討する際の参考にしていただければ幸いです。

「実務実習記録」記載項目の例示

1. 自己紹介欄（*を付けた項目は必須）

【学生の個人情報】

- 氏名*
- 生年月日
- 現住所
- 帰省先
- 連絡先住所：大学とする。*
- 連絡先：学生担当教員（学生の連絡先を把握しておく）*
大学実務実習窓口（事務室など）*

【自己紹介等】

- 自己紹介
- 4年次までの学習について
 - ◆好きな分野：コース（領域）ユニット（科目）
 - ◆所属研究室
 - ◆総合薬学研究（卒業研究）のテーマ：
- 将来の希望
- 目指す薬剤師像（どのような薬剤師になりたいか？）
- 実務実習に対する気持ち、想い、希望など（各実習前に記入）
 - ◆事前学習に対して
 - ◆病院実習に対して
 - ◆薬局実習に対して
- 実務実習における学生個人としての目標（各実習前に記入）
実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsとは別に、個人としての目標を設定する。
 - ◆事前学習における目標
 - ◆病院実習における目標
 - ◆薬局実習における目標

○ 個人としての目標の到達度

個々の学生のニーズに応じた実務実習を実施するために実習の途中や終了時に確認する。

例えば、病院実習や薬局実習であれば、4週目、8週目、終了時のレポートなど

◆事前学習における目標について

◆病院実習における目標について

◆薬局実習における目標について

○実務実習の自己評価（各実習終了時に記入）

◆事前学習で成長したこと、今後の課題など

◆病院学習で成長したこと、今後の課題など

◆薬局学習で成長したこと、今後の課題など

【健康に関して】

○ 健康診断記録（実施日、特記事項）

○ 予防接種・免疫学的検査の記録

○ その他の特記事項

【加入保険について】

○ 損害賠償保険

○ 傷害保険

【守秘義務に関する誓約書】＊

○「病院・薬局等における研修等の誠実な履行、個人情報保護、病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書」

○「病院・薬局等における研修等の誠実な履行、個人情報保護、病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する誓約書」

2. 担当教員からのメッセージ

【病院実習・薬局実習に関する希望・期待など】

○ 学生に向けて

○ 指導薬剤師に向けて

例)事前学習において特に優れていたところ、あるいは少し不得手なところを指導薬剤師に伝え、実習スケジュールや内容について希望を伝える。

3. 実務実習スケジュール

○ 実務実習事前学習

○ 病院実習

○ 薬局実習

4. 実習日誌

- ・学生の成長記録として位置づける。到達度の評価は、例えば下記の“週報”を利用する。
- ・記載量が過多にならないように注意し、日誌が学生にとって過度の負担にならないよう配慮する。

【日誌記載項目の例示】

- 「一日の目標」：前日の実習の反省に基づく学生個人としての目標を記入
- 実習内容
- 実習内容が該当する SB0s（指導薬剤師が毎日確認する必要はなし）
- 「一日の目標」の達成状況、大切だと思ったこと、気づいたことなど。
- 指導薬剤師からのコメント

※指導薬剤師からのフィードバック内容を学生が記入することも有効と考えられる。

5. 週報

- ・評価に関する記録の例として、本委員会では“週報”を紹介する。
- ・一週間を振り返っての実習進捗状況と評価を記入し、指導薬剤師と大学教員が確認する。

【週報記載項目の例示】

- 実習内容
- SB0s 到達度
 - 学生自己評価：目標到達度の記録とコメント
 - 指導薬剤師による評価：目標到達度の記録とコメント
- SB0s への到達度チェック
 - 紙媒体：“実務実習指導・管理システム”の評価入力画面を使用
- 学生担当教員からのコメント

6. 実習中の学習成果

- ・実習中の学習成果物（レポート、薬剤情報提供書、インシデントレポートなど）も実務実習記録の一部として取り扱う。

「実務実習記録」作成プロセスの例示

1. 「実務実習記録」の作成

- “実務実習事前学習” から “実務実習” が開始するととらえて、“実務実習事前学習” の開始直前に「実務実習記録」の作成を開始する。
- 個々の学生が実務実習期間中を通して指導を受ける教員をここでは“学生担当教員”と呼び、学生担当教員は“実務実習事前学習”開始前に決めることとした。
- 「実務実習記録」には学生の自己紹介欄を設け、学生は担当教員と面談を行いながら自己紹介欄に記入する。
- “自己紹介欄”の記載項目（*を付けた項目は必須）
 - ・【学生データ】として記入する事項
 - 氏名*
 - 生年月日
 - 現住所、帰省先
 - 連絡先住所：大学とする*
 - 連絡先：学生担当教員（学生の連絡先を把握しておく）・大学実務実習窓口（事務室など）*
 - ・【自己紹介等】として記入する事項
 - 自己紹介
 - 4年次までの学習について
 - ◆好きな分野：コース（領域）ユニット（科目）
 - ◆所属研究室
 - ◆総合薬学研究（卒業研究）のテーマ：
 - 将来の希望
 - 実務実習事前学習に対する気持ち、想い、希望など
 - 実務実習事前学習に対する学生個人としての目標（各実習前に記入）
実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsとは別に、個人としての目標を設定する。

2. 実務実習事前学習中

- 事前学習中の成長記録と学生担当教員の役割については、今年度の取り組みの成果を大学が積極的に公表し、大学間で情報が共有され、次年度以降の取り組みに反映されることが期待される。
- 本委員会において提案された事前学習中の「実務実習記録」に関する取り組みを例示として以下に紹介する。
 - ・学内で実施する事前学習中も学生は「実務実習記録」として日誌、週報などを書く。
（日誌、週報の記載項目例は、上記参照）
 - ・学生担当教員は定期的に学生の成長を日誌や週報などで確認し、必要なフィードバック（形成的評価）を行う。
 - ・個人としての目標の到達度についても事前学習の途中で確認する。
 - ・事前学習中から学生が日誌や週報を書き、学生担当教員が定期的に成長を確認することで、病院・薬局での実務実習中の担当教員による指導が円滑に実施されることが期待できる。
 - ・事前学習中の「実務実習記録」に日誌や週報が加われば、実習施設の指導薬剤師は当該学生の事前学習中の成長過程を確認できる。

3. 実務実習事前学習の終了後

- 「実務実習記録」の以下の項目について、学生は担当教員と面談を行いながら記入する。
(あるいは、学生が記入後、担当教員と面談する)
 - 事前学習における個人としての目標への到達度
 - 事前学習で成長したこと、今後の課題など
 - 目指す薬剤師像 (どのような薬剤師になりたいか?)
 - 次の実習 (病院あるいは薬局実習) に対する気持ち、想い、希望など
 - 次の実習 (病院あるいは薬局実習) における個人としての目標

- 「実務実習記録」の以下の項目について、学生は担当教員とともに確認しながら記載する。
 - 学生の健康に関して
 - ◆ 健康診断記録 (実施日、特記事項)
 - ◆ 予防接種・免疫学的検査の記録
 - ◆ その他の特記事項
 - 加入保険について
 - ◆ 損害賠償保険
 - ◆ 傷害保険
 - 守秘義務に関する誓約書*
 - ◆ 「病院・薬局等における研修等の誠実な履行、個人情報の保護、病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書」
 - ◆ 「病院・薬局等における研修等の誠実な履行、個人情報の保護、病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する誓約書」

- 「実務実習記録」に「担当教員からの病院実習・薬局実習に関する希望・期待」などの欄を設け、大学教員から学生および指導薬剤師に向けたメッセージを記載する。
 - 担当教員からの病院実習・薬局実習に関する希望
 - 例) 事前学習において特に優れていたところ、あるいは少し不得手なところを指導薬剤師に伝え、実習スケジュールや内容の検討を依頼する。

4. 「実務実習記録」を用いた指導薬剤師との打合せ

- 学生担当教員は実務実習記録を利用して指導薬剤師に学生紹介を行う。
 - ・ 大学および学生個人の実習内容に関する希望を指導薬剤師に伝え、実習内容について確認する。
 - ・ 実習スケジュールを調整し、スケジュール表を実務実習記録に追加する。
- 教員は指導薬剤師に実習中の実務実習記録への記入やフィードバック方法について説明する。
- 実習施設独自の注意点があれば、実務実習記録に記載する。

5. 病院実習あるいは薬局実習中

- 「日誌」：学生は実習中の成長記録として日誌 (A4 用紙一枚程度) を書く。
【日誌記載項目】
 - 「一日の目標」：前日の実習の反省に基づく学生個人としての目標を記入
 - 実習内容
 - 実習内容が該当する SB0s (指導薬剤師が毎日確認する必要はなし)

- 「一日の目標」の達成状況、大切だと思ったこと、気づいたことなど
- 指導薬剤師からのコメント
 - ※指導薬剤師からのフィードバック内容を学生が記入することも有効と考えられる。

- 「週報」：学生は実習中の評価に関する記録として週報を書く。
 - ・一週間を振り返っての実習進捗状況と評価を記入し、指導薬剤師と大学教員が確認する。

【週報記載項目】

- 実習内容
- SB0s 到達度
 - 学生自己評価：目標到達度の記録とコメント
 - 指導薬剤師による評価：目標到達度の記録とコメント
- SB0s への到達度チェック
 - 紙媒体：“実務実習指導・管理システム”の評価入力画面を使用
- 学生担当教員からのコメント

- 個人としての病院実習あるいは薬局実習の目標への到達度を確認する。
 - ・個々の学生のニーズに応じた実務実習を実施するために重要である。
 - ・例えば、4週目や8週目に実務実習記録に記載し、指導薬剤師と学生担当教員が確認してフィードバックする。

6. 病院実習あるいは薬局実習の終了時

- 「実務実習記録」の以下の項目について、学生は担当教員と面談を行いながら記入する。
 - (あるいは、学生が記入後、担当教員と面談する)
 - 当該実習における個人としての目標への到達度
 - 当該実習で成長したこと、今後の課題など
 - 目指す薬剤師像（どのような薬剤師になりたいか?）
 - 次の実習（病院あるいは薬局実習）に対する気持ち、想い、希望など
 - 次の実習（病院あるいは薬局実習）における個人としての目標

7. 次の実務実習に向けて

- 上記の4と5のステップを繰り返す。
 - ・学生担当教員は「実務実習記録」を利用して、学生のこれまでの学習状況を指導薬剤師に伝える。

8. 実務実習の終了時

- 「実務実習記録」の以下の項目について、学生は担当教員と面談を行いながら記入する。
 - (あるいは、学生が記入後、担当教員と面談する)
 - 当該実習における個人としての目標への到達度
 - 当該実習で成長したこと、今後の課題など
 - 目指す薬剤師像（どのような薬剤師になりたいか?）
 - これからの学習に対する気持ち、想い、希望など